

SINAPIS



社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

月刊シナピスニュースレター

Vol.
90

2023.11

年間テーマ ～ 平和を目指してともに歩もう ～



地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

カトリック大阪大司教区
社会活動センター・シナピス

TEL/06-6942-1784 FAX/06-6920-2203

Email/sinapis@osaka.catholic.jp

ホームページ/<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

タイトル: 「Bring Happiness」

作: かずはるみ & はるみやざき
(セントヨゼフ女子学園高等学校)

第2回シナピス主催絵画コンテスト
シナピス賞 受賞作品

巻頭言

亡くなられた人々と共に



姫路西ブロック担当司祭 大久保 武

カトリック教会において、11月は死者の月とされています。

それぞれに身近な人々、身近でなくとも縁のある人々や共通点を持つ人々が思い出されますが、私たちはそういった人々に留まらずに全ての人々、特に謂れなき経緯によって悲しみのうちに亡くなられた人々の為に心から祈りを捧げてまいります。

さて、私たちキリスト信者は神様の示される平和の姿へ近づくために、それぞれが持つ様々な違いを受け入れ合って、共に歩む共同体を作り続けています。

それでも様々な難問にぶつかりますが、「およそ鍛錬というものは…後になるとそれで鍛え上げられた人々に義という平和に満ちた実を結ばせるのです」(ヘブライ人への手紙 12章 11節) という言葉に励まされたりもしつつ、唯一の神様への同じ信仰を受けた者であるという大前提の共通点ゆえに、世界全体で実現するよりは早く平和を達成できるのでしょうか。

つまり、違いを受け入れ合うには、お互いに大切にしたい共通点を確認されるかどうか重要になってくると私は考えています。

ならば、全世界で平和を実現するために必要な共通点とは何でしょうか？もちろん全ての人が同じ信仰を十全に受け入れることができれば何よりなのですが、私が今思うこととしては、“人はいつか死ぬ存在であるという認識”があります。

今更何を言っているんだと思われかねませんが、だからこそすべての人、つまり自分も目の前の人も遠くにいるあの人も、与えられた命を精一杯生きようとしており、そのために何らかの形で助け合っているのだと思い直すことができるのではないのでしょうか。

お互いに傷つけ合うことがあるのだとすれば、それは相手が自分に危害しか加えないと思込んでいるからであり、実は気付かないところで支え合っているという事実を見出せないからなのでしょう。

とは言え、その事実を再発見するにも、神様からの恵みが欠かせません。亡くなられた人々も含め、同じ平和を望む全ての人と共に、これからも祈り続けましょう。

年間テーマ

～平和を目指してともに歩もう～

身近なことから世界に至るまで、互いを思いやれないことで生じる衝突が後を絶ちません。剣を取る者は皆、剣で滅びる」(マタイ 26:52)と言われたイエスの生き方に倣い、暴力に打ち勝つ強い信念をもち、交わりを通して互いを理解し尊重しあえる平和の実現を目指します。

このニュースが皆さまと一っしょに考え、わかちあいの場となることを願っています。



正義と平和全国集会 大阪大会(2021年11月22日～23日) オンライン参加から2年…実りの大きさに感謝！

仁川教会 社会活動委員会

《人権問題から見た福島第一原発事故 子ども脱被ばく裁判を通して(分科会 10)に参加したワケ》

仁川教会では、福島の原発事故以来、福島の子どもの健康のために“保養キャンプ”を実施するグループのために、その都度信徒の皆さんに募金をお願いして、支援してきました。

しかし、2018年からは「忘れないフクシマ募金」として、毎月一度聖堂内に募金箱を置かせていただき、福島の子どもの保養に力を入れている団体に年度末に送金しています。何か良い支援の方法があるのではないかという気持ちで、社会活動委員会の数名がこの分科会にオンライン参加しました。

《登壇者・井戸謙一弁護士（子ども被ばく裁判弁護団）と

片岡輝美さん（日本キリスト教団 若松栄町教会員）からの学び》

井戸弁護士は、科学的な根拠に基づき、公に知らされていない内部被曝の怖さを話されました。

片岡さんは牧師夫人という立場で、「あなたが避難しないと、ここに居ても大丈夫なんだと勘違いされるから…という促しがあり、批判を恐れずに関西に一旦逃れた」と話されました。

その後、被災地・福島にすぐ戻られ、被災者と共に様々な活動を精力的に始められました。

核被害を「見えない化・見せない化」する国において、国や司法に声を上げる、つまり、キリスト者が原告になるということに躊躇しない勇氣に、オンライン参加の司祭もシスター方も信徒も「カトリックではそれはなかなかできないことですね」と口々に語り合ったことを忘れることができません。

《心に響いた「宗教者として、“寄り添うだけ”で良いのでしょうか？」という問いかけ》

福島原発事故を人権問題として、「原子力行政は憲法と倫理に反する」という信念から、宗教者・信仰者だからこそ「命をつなぐ権利」を主張し、奪われた権利を取り返すために奔走する片岡さん。

「信仰者として、いつも“気の毒な人”を助ける側に立ち、結局、社会の問題を他人ごとにはしていないでしょうか。“寄り添う”だけでなく、“当事者”として活動する」、「主に喜ばれる生き方を吟味する」と言われたことが心に響き、その後の行動基準に影響を与えています。

また、感情的に批判するのではなく、日本国憲法第25条「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」にも反するという見方を学び、その後の思考に影響を受けています。

《その後の交わりと絆の広がり》

当日の司会者・屋間さんから各地の活動情報などが頻繁に届き、全国各地の方からも新聞報道の内容や参考書籍の紹介が届いています。真剣に取り組んでいる仲間存在を心強く思い、後世のためにと祈るような思いで一緒に学んでいます。

また、片岡さんからの呼びかけで「これ海」（これ以上海を汚すな！市民会議）にも度々オンライン参加し、回を重ねるたびに親しくなり、世界各地の仲間ともつながって行動している喜びを感じています。



思えば、「正義と平和」に参加させていただいたことの実りの大きさに驚きと感謝の日々です。



「正義と平和全国集会 大阪大会」から2年 ナ

「ラウダート・たわし」のこと

シナピス運営委員 宮内 陽子

台所やお風呂場で使っているスポンジがだんだんとへたっていくのを見て、スポンジのかけらは海に流れていくのだろうかといつも気になっていました。

下水処理場で物理的、化学的に処理されたとしても、完全に消えてしまいはしないだろう、小さなプラスチック片を飲み込んだめざしやちりめんじゃこを私は食べているのかも、いや自分一人の問題ではなく、つもり積もれば海洋汚染につながってしまう、と。



ある機会にジュート(黄麻)でたわしが作れると知り、糸問屋でジュート糸を買って編んでみました。多少の汚れは洗剤いらず、ひどい油污れも古紙や古着を切って拭けば少しの洗剤で落とせます。

当初はあの泡立ちが忘れられず、スポンジに戻りたいという誘惑に何度も駆られました。それから3年、ジュートたわしにすっかりなじみ、今では海洋汚染をしているという罪悪感からほんの少し解放されています。

シナピスでも提案し、シナピス工房の目玉として、平和旬間やバザーなどで皆さまのお手元にも届いているのではないのでしょうか。

一昨年の「正義と平和全国集会 大阪大会」の分科会の時、ジュートたわしのことを少し話題にしました。すると、ある参加者が「知り合いの会社が、ジュートの袋を提供できる」と言われるではありませんか。「ぜひお譲りください」とお願いすると、段ボール箱にいっぱいのコffee袋を送っていただきました。

それを移住者の皆さんが洗って干し、糸を抜いてつなぎ、編む作業を今も続けています。

ジュートは熱帯や亜熱帯の地域で栽培され、太陽の熱と水があればすくすくと育ち、大量のCO₂を吸収してくれます。焼却しても有害物質を出さず、自然界で完全分解し、環境を汚染しません。

私たちは地球温暖化に責任があります。次の世代にこれ以上負の遺産を残さないよう、豊かで便利な生活を追い求める暮らし方を見直し、「ともに暮らす家」を大切にすることを心がけたい…ジュートたわしはそのささやかな一歩と考えます。名付けて「ラウダート・たわし」！ふざけていません。大真面目です。

「たわし」のことだけじゃないでしょ？河川に流れ込む有機フッ素化合物や海洋投棄されている汚染水はどうするのか、もっと大事なことがあるんじゃないと言われるかもしれません。

でも、両方とも大切です。ですから、身近なところから、できるところから出発したいと考えています。

アベイヤ司教さまの講演会に参加して

カトリック垂水教会信徒 野村季里



9月30日、サクラファミリアで「シノドス ともに歩むために ～賜物を活か
し合う共同体～」というテーマでアベイヤ司教さまの講演会が開催されました。

お話を聞いてまず思ったことは、「私はシノドスをきちんと理解できていなかった」
ということです。3つのステップの詳しい説明をお聴きして、私は神様の働きかけ
にとても鈍感であったと気づきました。

私自身のため、大切と感じたことを忘れないように書き留めておきたいと思います。

第16回シノドスは今までとは違い、教皇さまのご意向を受け2年間の道のりを準備ではなくシノド
スそのもの一部として定められました。

2年前、私たちはシノドスのテーマである「ともに歩む教会のため、交わり、参加、宣教」というこ
とについて話し合うことを求められました。教会全体であったり、または小さなグループでいくつかの
質問について話し合いをするという形であったと記憶しています。そしてそこで話し合ったことをまと
めて教区に提出するというような作業を通じて、自分たちもシノドスに参加しているという実感を得る
ことができたと思っていました。

2021年10月の聖ピエトロ大聖堂での開催ミサの中で、教皇さまがシノドスのテーマに触れられ、
大事な3つのステップを示されました。「出会うこと、聞くこと、識別すること」です。神様との出会
いに心を開くということ。真剣に関わって、耳を傾けるときに聞こえる人々の心からの叫びの中に神様
の声が聞こえてくるということ。神様がひとりひとりのキリスト者に何を求めておられるのかを見極め
ること。そして良い識別をするために避けるべき誘惑として「形式主義、主知主義、固定主義」を挙げ
られています。

どれも意識していないと陥りやすいことです。特に主知主義については、生活と結びついたものが大
切ということを教えていただきました。抽象的な話に時間を費やし立派な文章を仕上げても教会も共同
体も変わらない。実際に私たちが提出した文章はけっして立派とは言えませんが、理想を求めすぎて実
行不可能ではなかったかと思い起こしています。

私は社会活動委員会で、野宿者支援、難民支援、その他いろいろなことで理不尽な出来事を知ること
になります。その時は何とかしたいという気持ちが強く働きすぎて、信仰の観点が抜け落ちることがあ
ります。識別できない状態に陥っているのです。

そんな時は、神様の声が聞こえていないだけでなく、存在すら忘れていきます。カトリック信者である
ことを前面に出し、行動を正当化しようとしていたのかもしれませんが。そのような行動は独りよがり
に見えたり、まわりの方々に理解されることもなかったでしょう。

神様の働きかけにもっと敏感になり、より良い識別ができるようになりたいと思います。

アベイヤ司教さまの講演会で、特に印象に残ったことがあります。司教さまは洗礼を授けるとき「今日からあなたは神の子になりました」という言葉に違和感を感じると仰いました。なぜかというと、私たちは「生まれた時からすでに神の子であるから」ということです。

信者になってまだ間がないとか幼児洗礼だとか信者同士の会話ではよく出てきますが、私たちはみな「生まれた時から神の子だ」と当たり前なのが新鮮に感じられました。

それぞれに与えられた役割は違いますが、神様の声を聞き、みなさまとともに祈り、ともに歩んでいきたいと心から思うことができました。

※広報スタッフより補足

野村さんの文中で「形式主義、主知主義、固定主義」という言葉が出てきましたが、ふだん行き慣れない言葉かと思いましたので、その解説を記します。以下はヨゼフ・アベイヤ司教が『カトリック福岡教区報』に書かれた文章からの抜粋です。

「形式主義」とは、聖堂の美しさは見るが、中に入らないようなものです。形や組織の運営にとどまってしまう誘惑です。

「主知主義」とは、抽象的な話にばかり時間を費やす誘惑で、その結果、立派な文章はでき上がりますが、自分も教会共同体も何も変わりません。

「固定主義」とは、「今までこうだったから」という理由で、新しい試みに踏み込まない誘惑です。

* 『福岡教区報』（2022年1月1日発行）より抜粋

教皇フランシスコの「マリアの汚れなき御心への奉獻の祈り」より

ここにご紹介したものは、今年の3月に教皇フランシスコがロシアとウクライナに向けて発表した「マリアの汚れなき御心への奉獻の祈り」の一部を抜粋・編集したものです。

いま、イスラエルとパレスチナで争いが激しさを増すなか、あらためてこの祈りを皆さんと共有したくなりました。

母マリアよ、あなたの嘆きが、私たちの頑なな心を動かしますように。
あなたが私たちのために流した涙が、憎しみで干上がった谷に再び花を咲かせますように。
武器の音が止まぬ中、あなたの祈りが私達を平和に向かわせますように。
あなたの母なる手が、度重なる爆撃におののき、逃げまどう人々に優しく触れますように。
あなたの母なる抱擁が、家と祖国を追われた人々に慰めを与えますように。
あなたの苦しまれた御心が、私たちの心の扉を開き、傷つき、見捨てられた兄弟姉妹に
尽くす者としてくださいますように。

アーメン

O Mother, may your sorrowful plea stir our hardened hearts.
May the tears you shed for us make this valley parched by our hatred blossom anew.
Amid the thunder of weapons, may your prayer turn our thoughts to peace.
May your maternal touch soothe those who suffer and flee from the rain of bombs.
May your motherly embrace comfort those forced to leave their homes and their native land.
May your Sorrowful Heart move us to compassion and inspire us to open our doors and to care
for our brothers and sisters who are injured and cast aside.



地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。

イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

シナピス年間テーマ ～平和を目指してともに歩もう～

シナピスの風

*掲載行事はコロナ感染症の影響で延期または中止になることがあります。ご参加の際は連絡先にお問い合わせください。 第163号 2023年11月1日発行

11月の祈り

「今こそ平和を」

慈しみ深い父よ、
わたしたちの世界では、
もう一度戦争が広がっています。
多くの人々が殺されています。
どうすれば戦争を止めることができ、
また、体と心に傷を負わされている
人々の叫びを
国々の指導者たちの心に
響かせることができるのでしょうか。
無力さを感じますが、諦めたくありません。
教皇フランシスコが広島で述べたことばを
わたしたちの祈りといたします。
「主よ、急いで来てください。
破壊があふれた場所に、
今とは違う歴史を描き
実現する希望があふれますように。
平和の君である主よ、来てください。
わたしたちをあなたの平和の道具、
あなたの平和を響かせるものとしてください。
アーメン。」



シナピス工房 クリスマスカタログ

新作ができました！

今年もみなさまに喜んでいただける
クリスマスに向けて人気グッズや新
作の作成に取り組んでいます。
クリスマスに贈るプレゼントは是非
ともシナピスでお求めください♪



総額 3,000 円以上 ご寄付を頂いた方
にステキなプレゼントを1つ差し上げ
ます！

シナピスカフェ

★毎週土曜日 13時ごろ～16時ごろ
11月の開催：4、11、25日
★月1回ランチ 11時ごろ～16時ごろ
11月は18日(土)

シナピスホーム：
生野区中川6丁目6-23
☎：080-8940-8847

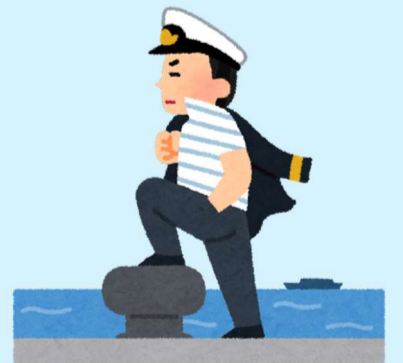


シナピスが支援している難民移住者達が
教会のバザーで出店します！
ぜひ遊びにいらしてくださいね。

11月 3日 カトリック芦屋教会
11月12日 カトリック生野教会
11月19日 カトリック夙川教会

船員さんへの奉仕ボランティア募集

大阪や神戸の港に、数か月かけて航行して来た船が到着します。
港に停泊中の船を訪れ、船員さんたちのために、ミサや追悼式をしたり、
毛糸帽子を編んでプレゼントしたり、交流の時を持つ等の活動を始めます。
長い間、家族を離れて働く人たちが慰めや励ましを得て、
心身ともに健やかに過ごせるようになるためです。(担当・エリック神父)
これらの奉仕活動のお手伝いをしてくださる方がありましたらシナピスまでご連絡下さい。
どなたでもOKですが、英語や韓国語などの語学が少しでも出来る方は特に歓迎します。



支援のお願い

感謝



日持ちのする食品、ハラル食品、食用油、米、カップ麺、
テレホンカード、ポータブルCDプレーヤーなどのご支援をお願いいたします。

各言語通訳できる方募集中！

難民申請者聞き取り通訳としてお手伝い頂ける方を探しています。
シナピスまでご連絡をお願いします。
※通訳料は相談



カトリック大阪大司教区 社会活動センター シナピス
Tel 06-6942-1784 Fax 06-6920-2203
URL: <https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

「点訳版」「音訳」
ご希望の方はシナピスまで
お申込み下さい。

活動へのご支援ご協力を

よろしくお願いたします。

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス



難民移住者への支援物資提供

も宜しくお願いたします。

米、ハラル食品、レトルト食品、油
テレホンカード、レトルトご飯、缶詰



お電話をお待ちしています！

☎06-6942-1784



シナピス公式

さまざまなお知らせや情報を発信！
友達追加は 👉 QRコードから 👈



HPはこちらから

<https://sinapis.osaka.catholic>

ニュースレター配布停止ご希望の方は
シナピスまでお知らせください。

あとがき

『シナピスニュース』の年間テーマは、「平和を目指してともに歩もう」です。しかし、現実の世界では新たな争いが次々とおこり、数知れぬ人々が安心して暮らす場所を失い、不安のなかで日々を過ごされています。そんな人々のことを思いながら、いま自分にできることを見つけて行動していきたいものです。教皇フランシスコからは、祈りや断食の呼びかけが届いています。世界中の人たちと心をひとつに合わせることで、平和に向けてさらに歩み続ける力が沸き起こってくるといいなと思います。

さて、一昨年秋に開かれた正義と平和全国集会から2年になろうとしています。今号では全国集会から生じた2つの出来事をご紹介しました。コロナ禍のためにオンライン開催となりましたが、ともに学びあい語りあうことが新たな出会いや取り組みを促したことを知るの、とても嬉しいものです。さまざまなイベントを後日振り返ってみることで、その価値に気づくことがあります。振り返りと似た言葉に「反省会」がありますが、こちらは「できなかったこと」に焦点が当たりがちです。むしろ、うまくできたことや新たに生じたことに光を当ててみるのが、平和への歩みを継げる力につながってきそうです。(I)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆広報活動

- ・教皇メッセージ、司教団メッセージ等社会活動の指針の伝達
- ・読者と教会内外の社会活動をつなぐ機関誌としてシナピスニュースを発行

◆大阪教区・社会活動委員会との連携

◆学習会研修会の企画

◆こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

◆カトリック中央協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ

◆難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22

カトリック大阪大司教区事務局内



●公共交通機関ご利用の場合

JR 森ノ宮駅より 約 1000m

地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より 約 800m

JR 玉造駅より 約 1000m

地下鉄長堀鶴見緑地線玉造 1 番出口より約 800m

●車でお越しの場合

阪神高速 1 3 号東大阪線法円坂出口

法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいます

☐郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

☐三井住友銀行 玉造支店 普通 9401958

カトリック大阪大司教区 シナピス

代表役員 前田万葉

☐オンラインはこちら →→→

